

### スペインにおけるスポーツトレーナー教育： スペインFisioterapeutaの教育に着目して

SUZUKI, Hirotaka / 鈴木, 寛隆 / 泉, 重樹 / IZUMI,  
Shigeki

---

(出版者 / Publisher)

法政大学スポーツ健康学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

Bulletin of Sports and Health Studies Hosei University / 法政大学スポーツ健康学研究

(巻 / Volume)

15

(開始ページ / Start Page)

9

(終了ページ / End Page)

21

(発行年 / Year)

2024-03-30

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00030544>

[ 原著 ]

スペインにおけるスポーツトレーナー教育  
—スペイン Fisioterapeuta の教育に着目して—

**Sports Trainer Education in Spain:  
Focus on the education of Spanish physical therapists**

鈴木寛隆<sup>1)</sup>、泉 重樹<sup>2)</sup>

Hiroataka Suzuki, Shigeki Izumi

[Abstract]

In Japan, extensive research on sports trainer education has been centered around the Japan Sport Association Athletic Trainer. Similarly, in other countries, such as the United States, the focus has been on the National Athletic Trainers' Association Athletic Trainer Certified. However, there is limited prior research on how countries without a formal Athletic Trainer certification system, like Spain and Italy, conduct sports trainer education. Therefore, the objective of this study is to shed light on the sports trainer situation in Spain.

In Spain, sports trainers are typically fulfilled by Fisioterapeuta (Physiotherapists) , and their educational system closely resembles Japan's Certified Physical Therapist system.

However, in the future, it will be necessary to consider sports trainer education in Spain from the perspectives of “early exposure” and the “hidden curriculum.” Similarly, in Spain, there are occupational domains within the sports science staff, such as “Readaptador-Fisico” and “Preparador-Fisico.” Therefore, it can be concluded through this study that there is a need to further deepen the research and conduct investigative studies on the education of “Readaptador-Fisico” and “Preparador-Fisico” in Spain, not just limited to Physio, as indicated by this study.

Keywords : International Comparative Education, Sports Trainer Education, Physiotherapy Education in Spain

キーワード：教育国際比較、スポーツトレーナー教育、スペイン理学療法教育

### 1. 研究背景

日本におけるスポーツトレーナー教育に関する研究は、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー (Japan Sport Association Athletic Trainer: 以下 JSPO-AT と略す) を中心に数多く行われており、一方で諸外国におけるスポーツトレーナー教育に関する研究についても、米国の<sup>注1)</sup>

National Athletic Trainers' Association Athletic Trainer Certified (以下: ATC と略す) を中心に行われている。その中で、スポーツトレーナー教育における国家間の単位互換制度に関する研究も存在している。また、各国がスポーツ医科学教育を各々行っている中で、アメリカや2000年にアメリカやカナダが中心となり、スポーツ・運動・

---

1) 東京外国語大学大学院総合国際学研究科

2) 法政大学スポーツ健康学部

傷害の予防と処置の分野における世界各国健康管理団体の集まりである、世界アスレティックトレーニング & セラピー連盟 (World Federation of Athletic Training & Therapy: 以下 WFATT と略す) が設立され、現在は世界 12 カ国 42 団体にまで増加している。なお、日本からは JSPO-AT と ジャパン・アスレティックトレーナーズ機構 (Japan Athletic Trainer's Organization) が所属している。

しかしながら、泉秀幸は「これらの WFATT 参加国においてもアスレティックトレーニングの専門家を表現する名称は様々で、その役割や資格、教育も国によって異なり、その中には、スペインや、イタリアのように、<sup>注2)</sup> アスレティックトレーナー (Athletic Trainer: 以下 AT と略す) の資格制度を持たない国も含まれている。<sup>3)</sup>」と報告をしている。また泉秀 (2014) は、各国の AT 専門家に違いがあることは、WFATT における情報交換や会議における発表を通じて、加盟団体からの参加者には共有されている情報でありながら、具体的に、何が、どのように、どれだけ異なっているかについての調査や比較研究は現在までなされておらず、国際的な AT 専門家の定義や教育・資格の基準が未だに存在しない理由にはこれらの基礎データの不足が一因である<sup>4)</sup>と述べている。

一方で、JSPO-AT 専門科目テキスト<sup>14)</sup>では、世界各国にも JSPO-AT と同様にスポーツ医・科学の専門知識をもって選手のサポートを行っている専門家がいますと考えられるものの、諸外国のアスレティックトレーナーに関連する状況が必ずしも日本と同じもしくは類似しているわけではないと記載がなされている。そして、そのような背景の中で諸外国のアスレティックトレーナーに関連する専門職について、以下の4つのケースが考えられるとしている。

1. 「アスレティックトレーナー」の名称で JSPO-AT と同様のコンピテンシー、役割の教育、資格制度をもつ専門職がいる。
2. 「アスレティックトレーナー」と別の名称で、

JSPO-AT と同様のコンピテンシー、役割の教育、資格制度をもつ専門職がいる。

3. 「他の専門職」(理学療法士など) がその専門職教育に加えてスポーツに特化した専門教育を受け、JSPO-AT のコンピテンシー、役割の一部、同等、もしくはそれ以上の領域をカバーしている。
4. 「アスレティックトレーナー」という名称の専門職、JSPO-AT と同様のコンピテンシーをもつ別名の専門職、その他の専門職によって AT に関連するコンピテンシー、役割が担われておらず、関連する教育資格制度が存在しない、もしくは知られておらず情報がない。

(日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第1巻 pp29)

実際に、妻木充法 (2014) はフランスにおけるスポーツトレーナー実情について、2007年パリサンジェルマン PSV クラブではスポーツトレーナーは4名おり、そのうち3名が理学療法士で1名がオステオパスであったと報告している。また「フランスではトレーナーをキネと呼ぶ<sup>9)</sup>」と報告しており、フランス語で「キネ = Kinésithérapeute (理学療法士)」であることから、フランスにおけるスポーツトレーナーは上述した分類上では3つ目のパターンの理学療法士であると言える。同様にスペインにおいても、スポーツチームでスポーツトレーナーの役割を担う職業のことを、日本において理学療法士に相当する職業である、「フィジオ (注3) Fisioterapeuta: 以下 Fisio と略す)」と呼んでいる。

以上のように、世界各国で様々な形でスポーツトレーナーに関する職業が存在し、各々で異なる教育や教育制度、役割などがあるため、世界各国のスポーツトレーナー教育に関して情報を集積していくことは非常に重要であると言える。

## 2. 先行研究

前述したが、アメリカのスポーツトレーナー教育 (ATC 教育) に関する報告は多くなされており、

泉重樹 (2016) はアメリカの ATC 教育における日本との違いについて以下のように述べている。

「アスレティックトレーナーは現在、米国ではスポーツ現場においてアスリートのメディカルサポートになくなくてはならない職業として確立している (… ) 一方日本においては、あんまマッサージ指圧師や鍼灸師等がスポーツ現場において外傷・障害の治療や疲労回復等のアスリートをサポートする役割を担ってきた歴史がある。(… ) ATC は医療資格である。(… ) その為に教育制度設計は日本の医療系国家資格取得の専門学校のそれに非常に近い。これは日本の AT が、スポーツ指導者資格であることと比べる大きな違いである。ATC は医療従事者として教育が施されていた。」

(泉重・ハモンズ, 2016, pp31-pp37 より抜粋)

上記先行研究では、ATC のカリキュラムを参考に作られた JSPO-AT カリキュラムではあるが、現状は ATC の教育制度設計により近いのは、医療系国家資格取得の専門学校の教育制度設計であると述べられている。そして、このような違いが生じている原因として、JSPO-AT と ATC に求められている役割がそもそも違うことに起因しているとされている。泉秀 (2014) もスポーツトレーナーの業務内容において、アメリカでは診断や治療も ATC の業務に含まれている一方で、日本ではそれらの語句の代わりに評価やコンディショニングなどの言葉が使われていることから、業務内容の違いを窺い知ることができると述べている<sup>3)</sup>。

また、浦辺幸夫 (2016) は、JSPO-AT が学問的な研究に対して、世界各国の AT と比べ意識が低いことを問題点として提起している。特に、世界各国ではスポーツトレーナー各々が現場レベルで起きた活動を客観的に評価されるエビデンスを主張し、配信し続けているが、JSPO-AT にはその意識が希薄であると報告している<sup>6)</sup>。

以上のことから、日本と各国 AT の間には、教育制度や教育内容、カリキュラム修了後の業務内容や、学問的な意識についても違いが散見され

ていることが鑑みえる。

前述したが、各国のスポーツトレーナー間の教育において具体的に、何が、どのように、どれだけ異なっているかを明らかにすることは国際的な AT 専門家の定義や教育・資格の基準を策定する上で必要であると言える。よって、現在多くの先行研究がなされているアメリカ、カナダ、アイルランド、台湾などだけでなく、WFATT に所属しているスペインやイタリアなど AT の資格制度を持たない国のスポーツトレーナー教育を明らかにすることは非常に重要だと考えられる。

### 3. 目的

本研究は、スペインにおけるスポーツトレーナー教育について明らかにするため、スペインの Fisio 教育に焦点を当て、Fisio 教育及び Fisio の資格に関する情報を集積することを目的とする。

### 4. 方法

スペインにおいて Fisio になるために必要な教育課程である、「スペイン高等教育 (学士課程) における Fisioterapia (理学療法) 教育」に関する先行研究の分析、および Fisioterapia 教育カリキュラム評価を元にスペインにおけるスポーツトレーナー教育の考察を行うこととした。

### 5. スペインにおける高等教育の概要

ヨーロッパにおける高等教育に関して堀井祐介 (2018) によると、「欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン (Standards and Guidelines for Quality Assurance in the European Higher Education Area: 以下 ESG と略す)」が質保証の基本的な考え方であり、1999 年に成立した「ボローニャ・プロセス」にそって教育内容や学位構造の標準化、質保証制度の整備を進められている。具体的には、「学位制度と学位・資格の学習内容を示したディプロマ・サプリメント (Diploma Supplement) の導入」や「学修構造を学士課程 (Undergraduate) および大学院課程 (Graduate) の 2 段階にし、大学院課程を修士

(Master) と博士 (Doctorate) に分類]、「欧州単位互換制度 (European Credit Transfer System) の確立」をボローニャプロセス確立の課題と設定している。ESG 発足後 2005 年には高等教育の内部・外部質保証など欧州基準の指針の作成や欧州質保証機関登録制度が発足されているが、一方で各国の取組みには差が出ている現状である<sup>12)</sup>。また、浅野茂 (2015) によると、英国やオランダでは政府が大きく後退して主たる調整者の役割を市場に委ねたのに対して、フランス、スウェーデン、スペインでは政府が主たる調整者の役割を維持し続けているとされる<sup>1)</sup>。

スペインの教育制度に焦点を当てると、スペインでは教育省が国家として教育計画を策定し、予算や補助金などの教育行政の権限を持っている。また、各自治州が国の法律に基づいて独自の教育法を作成している。このことは、平成 26 年度文部科学省先導的の大学改革推進委託事業の報告書においても、浅野が「現在のスペインの教育制度は 1990 年 10 月に制定された「教育制度の一般整備に関する組織法」(LOGSE) に準拠している<sup>1)</sup>」と述べている。

一方で、学校教育に関しては公立 (Centros públicos)、私立 (Centros privados)、半官民 (Centros privados concertados) の 3 つで構成され、義務教育は日本と同様に小学校および中学校にて行われている。また、高等教育においては 2007 年 4 月制定の「大学組織改正法」(Ley Orgánica de Universidades) によって規定され、学術研究を中心とする総合大学、芸術専門教育を行う専門大学、上級職業教育 (短期大学に相当) を行う大学の 3 パターンがある。政府機関の一つである Ministerio de Universidades によると、2021 年度 (2021 年 9 月から 2022 年 8 月) は、83 校の大学 (公立 50 校、私立 33 校) が設置されている。(Fig.1.)

前述したボローニャ・プロセスに沿って、スペインでは教育制度が組み立てられており、学士課程にあたる Diplomado、修士課程にあたる Licenciado、博士課程にあたる Doctorado から高等教育制度が成り立っている。学士課程においては、「芸術・人文 (Artes y humanidades)」、「科学 (Ciencias)」、「健康科学 (Ciencias de salud)」、「社会科学・法学 (Ciencias sociales y jurídicas)」、「技

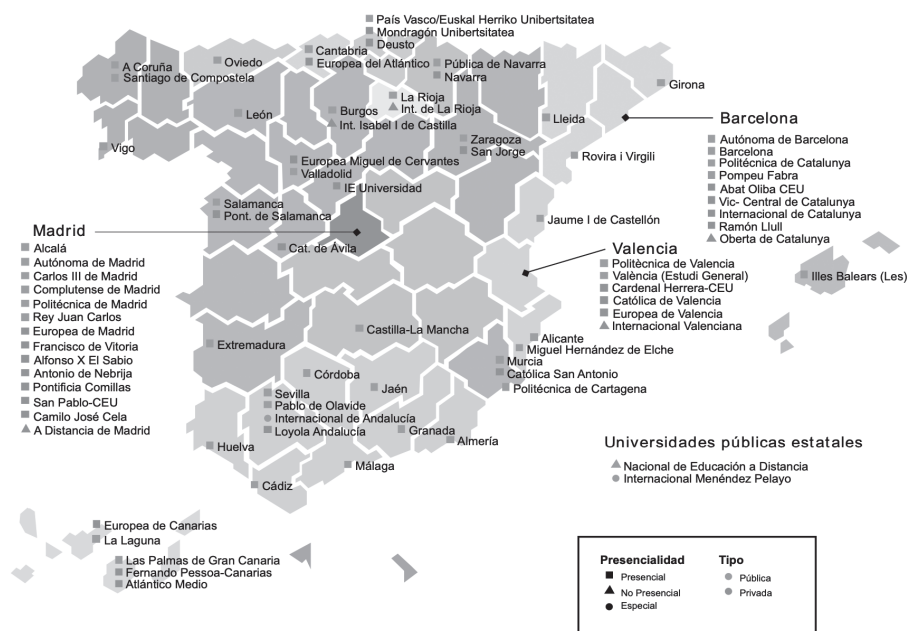


Figure1. <スペイン大学リスト>

(出典: DATOS Y CIFRAS DEL SISTEMA UNIVERSITARIO ESPAÑOL, PUBLICACIÓN 2020-2021 より引用)



術・建築 (Ingeniería y Arquitectura)」の5つの分野に分類され、それぞれ4年間で240単位の取得が学位取得の必要要件とされている。

## 6. スペインにおける Fisiso 教育

### 6.1 Fisiso の歴史概要

Fisiso の制度設立以前は看護師などが Fisiso の役割を担っていたが、1953年に Ayudantes Técnicos Sanitarios (以下 ATS と略す) が制度化され、医療分野が専門化されることになった。その後、1957年ATSに Fisioterapia の学問分野が創設されたことから、Fisiso の制度設立が始まる。その後、1959年にはスペイン理学療法士協会が創設され、1980年12月には国の政令により、大学の教育システムに組み込まれることが決まり、翌年の1981年1月に、“Sobre la integración en la Universidad de los Estudios de Fisioterapia como Escuela Universitaria de Fisioterapia” (意訳：Fisiso 教育カリキュラムの大学教育への統合) が成立、その後1983年に大学改革組織法とともに Fisiso 教育制度設計がなされた。そして実際に高等教育(大学教育カリキュラム)として Fisiso 教育を受けることが可能になったのは、同年の La Universidad de Valencia (バレンシア大学) が最初である。2007年には大学組織改正法施行による大学の教育改革が行われ、Fisiso のカリキュラムも

再整備された。

Elena Chamorro (2018) によると、Fisiso 教育制度が大学の正式なカリキュラムになる以前の、1958年6月にスペインのマドリードにて初めて Fisiso の教育を行う学校が設立されたが、国の政治的背景や経済状況などの関係もあり、Fisiso 教育制度設計が他のヨーロッパの国々に比べてスペインは遅かったと述べている。また、制度設立初期は理学療法専門の学校 (Escuela de Fisioterapia en la Hermandad Salus Infirmorum de Madrid) や ATS が管理していた学校 (La Escuela de ATS de la Cruz Roja de Madrid)、医学部に併設されていた学校 (La Escuela adscrita a la cátedra de Patología Quirúrgica 1ª de la Facultad de Medicina de la Universidad de Madrid en el Hospital Clínico San Carlos) などさまざまな教育課程 (学校) が存在していたと報告している<sup>15)</sup>。

### 6.2 スペイン Fisiso 概要

前述したが、現在スペインにて Fisiso になるためには高等教育機関にて Fisioterapia の学問を収める必要がある。2022年現在スペイン国内で Fisioterapia の学問を収めることができる高等教育機関があるのはスペイン国内に52校となっている。また、Fisiso 登録者総数は2021年の統計では62,691人(男：23,556人、女：39,135人)、

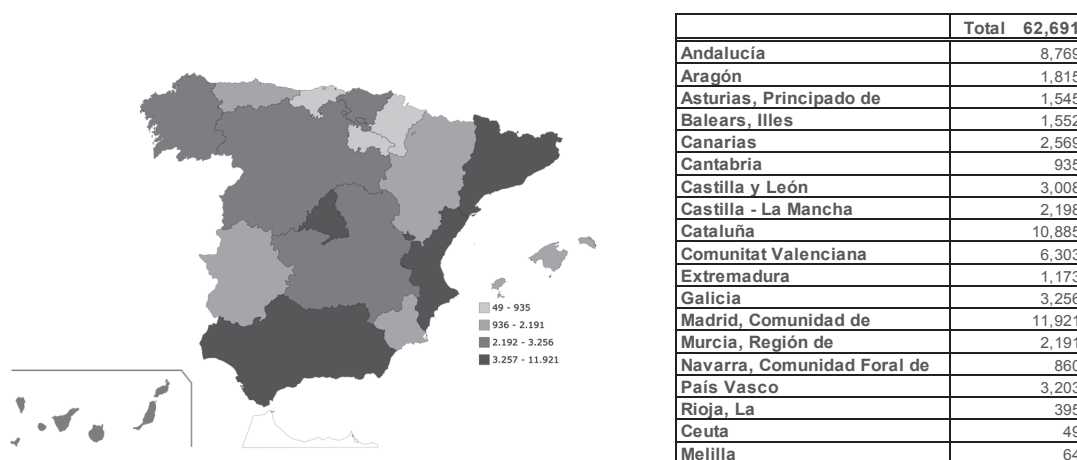


Figure 2. <スペイン 県別 Fisiso 登録者>  
(Instituto Nacional de Estadística データを参照、筆者作成)

自治州別登録人数は Fig.2 の通りである。2006 年の登録者 26,343 人であることから、この 15 年間で約 2.3 倍増えている。

また、スペインを含めたヨーロッパ連合加盟各国では、学士課程を修了し、学位を得た後に必要な手続きを終えた段階で Fisio の Profesional（職業資格）を得ることができる。そして、その後の修士課程ではさらに専門的な課程に分かれており、スペインの大学院に設置されている、主な修士課程専門分野の例として下記のものが挙げられる。

- Fisioterapia deportiva：スポーツ理学療法の修士課程。治療（手技療法）やテーピング、スポーツ現場における応急処理、スポーツリハビリテーション、トレーニング理論、栄養管理などのアスリートに対するコンディショニング関連全般を扱う学問分野。
- Fisioterapia neurológica：神経理学療法の修士課程。神経系の損傷や変異に関して、また、アルツハイマー病やパーキンソン病に関しての治療などを扱う学問分野。
- Fisioterapia pediátrica：小児理学療法の修士課程。子供の年齢や成長過程に合わせて運動発達障害などの治療を扱う学問分野。
- Fisioterapia oncológica：腫瘍理学療法の修士課程。悪性腫瘍とその後遺症に対する治療を専門として扱う学問分野。

上記のように専門性をより高める教育システム

がスペインを含めたヨーロッパ諸国では構築されており、これらはより専門性の高い臨床技能を有するスペシャリストを育成することを目的としている<sup>25)</sup>、日本の<sup>注4)</sup> 認定理学療法士制度に近いと言える。

他方で、高等教育以外でのカリキュラムとして、各州や各大学が統括している Fisio 教育プログラム（鍼コース）なども複数存在しており、多くの Fisio が専門性を高めるために Fisioterapia の学位を取得後に、何らかのコースに通うことが多い実情がある。また、スペインでは「Fisioterapia」と「Ciencias de la Actividad Física y del Deporte」（スポーツ科学）両方の学位を 5 年間でとることができる教育システムがあることも一つ特徴的な点である。

### 6.3 Fisio 教育カリキュラム

Fisio に求められる能力として「World Physiotherapy 2019<sup>21)</sup>」では、患者に対して臨床的な評価を行い外傷障害に対する計画を立てる能力や、行なった治療やリハビリテーションを通じてどのように変化をしたのかを医療専門家として医師を含めた他のスタッフと連携する能力が求められるとしており、上記能力を身につける教育カリキュラムとして以下のものがスペインでは設定されている。スペインにて Fisio カリキュラムを修了するためには、他の学部と同様合計 240 単位を収めることが求められている。240 単位は 4 つの段階（Formación básica、Obligatorios、Optativos、

	Formación básica	Obligatorios	Optativos	Trabajo de fin de Grado
1er curso	48	12		
2º curso	12	48		
3er curso		48	12	
4º curso		12	36	12
Totales	60	120	48	12

Figure. 3. < Fisio カリキュラム科目数 >  
(UAB Grado en Fisioterapia ホームページより抜粋)

## Asignaturas de formación básica y obligatorias

1er curso	2º curso
<ul style="list-style-type: none"> <li>- Anatomía Humana I y II</li> <li>- Bases Biológicas del Cuerpo Humano</li> <li>- Biofísica y Biomecánica</li> <li>- Metodología Científica y Bioestadística</li> <li>- Función del Cuerpo Humano</li> <li>- Fisioterapia Básica del Aparato Locomotor</li> <li>- Fundamentos de la Fisioterapia</li> <li>- Psicología Humana</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Fisioterapia en Neurología I</li> <li>- Conceptos Clínicos Patológicos. Técnicas de Diagnóstico</li> <li>- Evaluación Clínica en Fisioterapia del Aparato Locomotor</li> <li>- Evaluación Instrumental en Fisioterapia del Aparato Locomotor</li> <li>- Técnicas Terapéuticas en Fisioterapia del Aparato Locomotor</li> <li>- Fisioterapia en la Patología del Aparato Locomotor I</li> <li>- Patología Medicoquirúrgica</li> <li>- Salud Pública</li> <li>- Prácticum I y II</li> </ul>
3er curso	4º curso
<ul style="list-style-type: none"> <li>- Fisioterapia en Geriátría</li> <li>- Evaluación y Tratamiento Fisioterapéutico en Procesos Cardiorrespiratorios</li> <li>- Fisioterapia en Neurología II</li> <li>- Fisioterapia en la Patología del Aparato Locomotor II y III</li> <li>- Inglés Técnico</li> <li>- Prácticum III y IV</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Trabajo de Fin de Grado</li> <li>- Prácticum V y VI</li> </ul>

Figure. 4. < Fisiología 基礎科目、必須科目リスト >  
(UAB Grado en Fisioterapia ホームページより抜粋)

Trabajo de fin de Grado) に分かれており、カタルーニャ州バルセロナ県の公立大学 Universitat Autònoma de Barcelona (以下:UAB) では Fisiología のカリキュラムについて以下の Fig.3 のように示している。

Fisiología のカリキュラムとして、第 1、2 学年では Formación básica(基礎科目) および Obligatorios (必修科目)、第 3 学年では Obligatorios および Optativos (選択科目)。第 4 学年では Trabajo de fin de Grado (最終学位審査) が主に組み込まれている。Formación básica および Obligatorios の詳しい内容は以下の Fig.4 になる。

第 1 学年では「Anatomía (解剖学)」、「Bases Biológicas del Cuerpo Humano (生理学基礎)」、「Biofísica y Biomecánica (生理学とバイオメカニクス)」、「Metodología Científica y Bioestadística (科学方法論と生理統計学)」、「Función del Cuerpo Humano (人体機能)」、「Fisioterapia Básica del

Aparato Locomotor (運動器の基礎理学療法)」、「Psicología Humana (心理学)」が基礎科目および必修科目として設定されている。第 2 学年では「Fisioterapia en Neurología(神経理学療法学) I」、「Conceptos Clínicos Patológicos, Técnicas de Diagnóstico (臨床概論、診断法)」、「Evaluación en Fisioterapia del Aparato Locomotor (運動器の理学療法評価)」、「Técnicas Terapéuticas en Fisioterapia del Aparato Locomotor (運動器の理学療法治療)」、「Fisioterapia en la Patología del Aparato Locomotor (運動器の理学療法病理学)」、「Patología Medicoquirúrgica (外科的病理学)」、「Salud Pública (公衆衛生)」、「Prácticum (実習) I y II」が基礎科目および必修科目として設定されている。



# Asignaturas optativas

## 3er curso

- Farmacología en Fisioterapia
- Prevención y Tratamiento de las Alteraciones del Suelo Pélvico
- Fisioterapia en Pediatría
- Desarrollo Psicomotriz del Niño y Fisiopatología Pediátrica
- Prevención y Tratamiento de Fisioterapia en Procesos Vasculares. Prevención y Tratamiento del Linfedema

## 4º curso

### Mención en Profundización en Fisioterapia del Aparato Locomotor

- Cadenas Musculares
- Terapia Manual Osteopática
- Neurodinámica
- Fisioterapia en la Prevención y en el Tratamiento de las Lesiones Deportivas
- Ortopedia Técnica Avanzada
- Fisioterapia en la Patología del Raquis
- Fisioterapia, Historia y Sociedad

### Mención en Profundización en Fisioterapia Neurológica

- Fisiopatología Neurológica Aplicada
- Valoración y Diagnóstico Fisioterapéutico en Neurología
- Tratamiento Fisioterapéutico en Neurología
- Psicomotricidad Normal y Patológica
- Técnicas de Preparación de Coadyuvantes en Fisioterapia para la Realización del Ejercicio Físico
- Profundización en Ergonomía
- Fisioterapia, Historia y Sociedad

### Mención en Profundización en Fisioterapia Cardiorrespiratoria

- Fisiología Cardiorrespiratoria
- Valoración de la Función Cardiorrespiratoria y Diagnóstico de Fisioterapia
- Tratamiento Fisioterapéutico del Tórax
- Técnicas de Preparación de Coadyuvantes en Fisioterapia para la Realización del Ejercicio Físico
- Profundización en Ergonomía
- Fisioterapia, Historia y Sociedad

Figure. 5. < Fizio 選択科目リスト >  
(UAB Grado en Fisioterapia ホームページより抜粋)

また、第3学年では「Fisioterapia en Geriátrica (高齢者に対する理学療法)」、「Evaluación y Tratamiento Fisioterapéutico en Procesos Cardiorrespiratorios (心肺機能に対する治療理学療法と評価)」、「Inglés Técnicos (理学療法英語)」、「Fisioterapia en Neurología (神経理学療法学) II」、「Prácticum (実習) III y IV」が基礎科目および必修科目としてカリキュラムに組み込まれ、第4学年では「Trabajo de Fin de Grado (最終学位審査)」が設定されている。また、Optativosについては主に第3学年および第4学年に設定されており、内容は上記の Fig.5 になる。Optativosにおいて、第3学年では「Formaclogía en Fisioterapia (形成理学療法学)」、「Prevención y Tratamiento de las Alteraciones del Suelo Pélvico (骨盤に関する予防および治療)」、「Fisioterapia en Pediatría (小児理学療法学)」、

「Desarrollo Psicomotriz del Niño y Fisioterapia Pediátrica (小児精神運動発達と小児理学療法)」、「Prevención y Tratamiento de Fisioterapia en Procesos Vasculares (血管過程における理学療法の予防と治療)」、「Prevención del Linfedema (リンパ浮腫の予防)」がカリキュラムとして設定されており、第4学年では「Mención en Profundización(意訳:専門性)」として Aparato Locomotor (運動器) もしくは Fisioterapia Neurológica(神経理学療法)、Fisioterapia Cardiorrespiratoria(呼吸理学療法)のそれぞれのコースに対してカリキュラムが設定されている<sup>25)</sup>。

## 7. 考察

前述したが、スペインの Fizio は欧州各国の資格に互換すると Physiotherapist であり、つまり日本における理学療法士に相当する職業である。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	
基礎科目群	基礎ゼミナール、情報リテラシー実践Ⅰ、実践英語Ⅰ a,b,c,d			【22 単位以上※】	
教養科目群	教養科目群・基礎科目群・キャリア教育科目(基礎科目群)から14単位以上修得 ★人間発達学、★リハビリテーション概論、★保健医療概論、☆基本動作と移動障害、☆教育学 その他の科目		総合ゼミナール		
基礎科目群					
専門教育科目群	必修科目	解剖学Ⅰ、解剖学演習、生理学Ⅰ、生理学演習 薬理学概論、運動学、精神医学Ⅰ 作業療法概論、作業療法概論演習 基礎作業学、作業遂行学 コミュニケーション論 保健医療臨床心理学 日常生活活動学	医療英語 a・b、解剖学Ⅱ、解剖学実習 生理学実習、病態学Ⅰ、内科学 神経内科学、整形外科Ⅰ、精神医学Ⅱ 小児科学、救急医学、基礎作業学実習 作業療法総合評価学 作業療法総合演習Ⅰ 作業運動学実習、身体領域の作業療法学 認知機能作業療法学、精神領域の作業療法学 発達領域の作業療法学、高齢領域の作業療法学 日常生活活動学実習、義肢装具学 作業療法初期臨床実習	脳神経外科学、画像診断学、老年医学 作業療法リソースニング、作業療法総合演習Ⅱ 身体領域の作業療法学実習 認知機能作業療法学実習 内部障害作業療法学 精神領域の作業療法学演習 発達領域の作業療法学演習 高齢領域の作業療法学演習 生活支援機器学演習、義肢装具学実習 作業療法プロセス臨床実習 作業療法総合臨床実習、作業療法学研究法	住環境整備学 地域作業療法学実習 地域作業療法学 就労支援技術論演習 作業療法理論と実践 作業療法管理学
	選択科目(専門教育)		IPE海外短期研修*	多職種連携Ⅰ* IPE海外短期研修*	△卒業研究、作業療法支援機器研究* メンタルヘルス作業療法* カウンセリング論※、障がい者とスポーツ論※ 作業療法事例研究* △作業療法教育論*、多職種連携Ⅱ* 多職種連携Ⅲ*、IPE海外短期研修*
	選択科目(専門基礎)	感染・免疫学 △生化学 生活支援環境学 関係法規	病態学Ⅱ、外科学、神経内科学Ⅱ 整形外科Ⅱ、公衆衛生学 リハビリテーション医学 言語聴覚治療学概論、健康管理論	精神保健学 社会心理学 △教育心理学 △障害児教育論	生理学Ⅱ、臨床心理学演習、保健医療社会学、国際保健医療比較論 災害保健科学概論、ケア・マネジメント論 リハビリテーション工学 △住環境整備学実習

Figure. 6. <東京都立大学健康福祉学部理学療法学科の履修モデル>  
(東京都立大学健康福祉学部理学療法学科 ホームページより抜粋)

参考として、スペインの公立大学 UAB と日本の公立大学である東京都立大学健康福祉学部理学療法学科の履修モデル (Fig.6.) を比較しても、基礎科目及び必須(必修)科目、選択科目において履修カリキュラム科目については近いものであった。

一方で、教育の学習順序に関しては異なる点が見られた。双方とも公立大学ではあるが、UAB のカリキュラムには第 2 学年および第 3 学年にてクリニックなどで行われる「実習」科目が 2 回に分けて組み込まれており、東京都立大学のカリキュラムに比べ、臨床経験をより重要視していることが言える。また、「実習」科目を比較的早い第 2 学年に組み込まれている効果として、「アーリーエクスプロージャー(専門領域職業体験)」の観点から有用であると考えられる。なぜなら、江村正ら(2014)によると「アーリーエクスプロージャー」は人間性を養い、学習意欲を向上させるため、教育上の意義が大きいと考えられているからである<sup>7)</sup>。実際に、第 2 学年で行われる「実習」科目について、

UAB シラバスには「科目の目標として、他の科目で学習した概念を実践通じて確認すること。そして、現場で働いている Fisio の監督下で知識や技術、価値観、態度(仕事に対する姿勢)を統合すること。」と記載がなされていることから、臨床現場に勤めている Fisio の姿と、大学での座学をマッチさせる目的があることを汲み取ることができる。

また、UAB ではカリキュラム修了後の進路について医療機関だけでなく、教育職および研究職、スポーツ施設など多岐にわたる進路があると HP 上に掲示されているが、この点に関して、日本の理学療法士の就職先として長井真弓ら(2021)は、近年は従来の医療機関や介護福祉施設にとどまらず、スポーツ関連施設やリハビリテーション関連企業など多岐にわたるとの報告しており<sup>10)</sup>、スペインの Fisio と日本の理学療法士の就職先は非常に近いといえる。

しかしながら、日本とスペインでは社会的背景や文化的背景に様々な違いが存在することから、純粋に日本の理学療法士教育と Fisio 教育を比較

して考察するのは難しい側面があることも事実である。例えば、吉本圭一（2001）は労働市場における意識として、日本では学歴・学校歴別労働市場が存在する一方で、欧州では専門別労働市場が発達しているといった社会的背景が高等教育においても複雑に関係していると述べている<sup>13)</sup>。すなわち、日本のいわゆる学歴社会では、医学部など一部の専門教育を除き、高等教育で何を学んでいたかにフォーカスしているのではなく、例えば就職活動時の募集要項に多く記載されている「4年制大学卒業」を要件としていることから見て取れるように、高等教育を受けたか否かあるいは専門学校を卒業したか否かにフォーカスしている。一方で、スペインでは吉本が述べているように高等教育で「何を学んできたか」をフォーカスしているといった違いがある。また、浅野茂（2015）はスペインにおける高等教育(学士課程)において、資格の枠組みとして以下のものが設定されていると報告している。

- a) 高度な専門知識を獲得し、職業を実践していくための最新の理論、方法論を深く理解できる。
- b) 自らの専門知識を活用して論点や手順を整理し、創造的かつ革新的なアイデアによって直面する問題を解決することができる。
- c) 必要な情報を収集して問題を適切に解釈できる能力を有し、社会、学術または倫理的に逸脱しない結論を導き出すことができる。
- d) 複雑な状況に順応でき、学術面ないし実践面で求められる新たな解決策の提示に向けて、自らの専門性を発揮することができる。
- e) 専門性に関わらず、すべての対象者に対して、自らの専門分野での知識、方法論、動向、課題について明確かつ的確に伝えることができる。
- f) 自主的かつ計画的に新たな知識や技術を学び、生涯にわたって自らの専門性を高めていく必要性を認識できる。
- g) 自主的かつ計画的に新たな知識や技術を学び、

生涯にわたって自らの専門性を高めていく必要性を認識できる。

（浅野，2015，pp133-134 より抜粋）

一方で、日本の理学療法士教育は大学以外でも専門学校等にて教育カリキュラムを受講できる仕組みがあり、特に専門学校における理学療法士教育は理学療法士の国家資格取得を中心にカリキュラムが組まれており、大学教育におけるそれとは若干異なっている点が存在している。このように、教育カリキュラムの中身以外の外的要因で様々な違いが存在している。このことは正に、Philip W. Jackson が 1968 年に初めて使用したと言われて<sup>注5)</sup> 隠れたカリキュラム (hidden curriculum) に該当する部分である。一見すると教育とは離れた社会的・文化的側面においてもこの「隠れたカリキュラム」は非常に重要な要素であり、泉重 (2016) も、日本は体育の存在がありその次にスポーツであるが、アメリカにおいてスポーツは完全にエンターテインメントであり、そのことが選手を支えるスタッフが有給のプロフェッショナルである事実に繋がっていたと<sup>2)</sup>、日米のスポーツに対する文化背景の違いがもたらす点についても言及している。また、筆者もスペイン現地で4シーズン活動する中で、多くのスペイン人 Fisio や医師と様々な怪我やコンディショニング方法をはじめ様々なことでコミュニケーションをとる機会を得たが、JSPO-AT 教育を受けた筆者自身と、スペインでスポーツトレーナー教育を受けた Fisio との間では、業務に関する認識や、業務内容だけではなく、そもそもスポーツに対する価値観が異なっていることを実感した経験を持っている。特に選手やスタッフ、チーム関係者とのコミュニケーションの仕方を含め、チーム内におけるスポーツトレーナーの立ち位置（役割）に関して教育カリキュラム以外の要素で大きな違いを感じるとともに、スポーツが社会の一部であるような感覚を覚えた。よって、今後はスポーツトレーナー教育に関する研究においては、「隠れたカリキュラム」を含めて検討する必要があると考える。

## 8. 本研究の課題

ヨーロッパ諸国を対象としたスポーツトレーナーに関する研究報告の多くは、対象とする職種を Physiotherapist（理学療法士）とする事例が多くを占めている。本研究においても、先行研究を踏襲し「スペインにおけるスポーツトレーナー＝Fisio」として論じたが、筆者が2022年2月および2023年10月にスペイン現地にて調査を行う中で、Readaptadorと呼ばれる専門職が存在することが分かった。また、スペインには日本におけるフィジカルコーチに該当する Preparador-Fisico と呼ばれる専門職も存在していることから、今後は Readaptador および Preparador-Fisico がどのような教育カリキュラムであるのかについて調査を行うとともに、Fisio との関連性やそれらの教育の違いを明らかにする必要がある。

さらには、スペインのスポーツトレーナーに関して考察を今後進めていくにあたり、いわゆる日本でスポーツトレーナーが担っている職業領域を、スペインでは Fisio と Readaptador および Preparador-Fisico がどのように職業領域分担がなされているのかに関して調査研究を行う必要があると考えている。

そして、今後スポーツトレーナーの国際教育比較を行うにあたり、考察で述べた「隠れたカリキュラム」の要素に関して考慮し、検討していく必要があると考えている。

## 9. まとめ

本研究は Athletic Trainer の資格制度を持たない国が、スポーツトレーナー教育をどの様に行なっているのかについての先行研究が少ないことに着目し、スペインのスポーツトレーナー教育について教育カリキュラムを元に明らかにすることを目的とした。スペインにおいて、いわゆるスポーツトレーナーは Fisioterapeuta が務めているとされるが、その教育内容は日本の理学療法士教育に近いものであり、教育課程修了後の教育制度は日本の認定理学療法士制度に近いものであった。

一方で、本研究を通じて「アーリーエクスポー

ジャー」、「隠れたカリキュラム」の観点からスペインのスポーツトレーナー教育について今後さらなる考察が求められた。

さらには、Fisio 以外にスポーツ医科学スタッフの役割を担っている Readaptador および Preparador-Fisico がどのような教育カリキュラムであるのかについて調査を行い、Fisio との関連性や教育の違いを明らかにすることでスペインのスポーツトレーナーについてさらなる研究を行っていききたい。

## 注釈

- 1) 全米アスレティックトレーナーズ協会公認アスレティックトレーナー、アメリカ医学会 (American Medical Association) によって認められた看護師や理学療法士と同じ準医学従事者として扱われ、アメリカにおける国家資格。現在は46州において関連法が存在し、アメリカ医師会からも Allied Health Care Professional として認められている。
- 2) スポーツドクターと連携し、アスリートのコンディショニングを統合的な視点でサポートすることを目的としている。現在プロサッカーリーグ、プロラグビーリーグでは「スポーツトレーナー＝アスレティックトレーナー」を指し示す。 (「Jリーグ規約第47条」、「ジャパンラグビートップリーグ規約32条」)。
- 3) 日本では理学療法士に相当するスペインにおける医療系国家資格。
- 4) 公益財団法人日本理学療法士会が認定する制度で、理学療法士自身が自らの専門性をさらに高める動機づけを目的に制度が構築された。2022年4月に制度が改訂され、現在は22の認定分野がある。個性の育成プログラムであり、専門性の高い臨床技能を必要とする。
- 5) 学校教育において、教育課程上のカリキュラム (顕在的カリキュラム) を伝達する際に、意図せず伝達される (潜在的カリキュラム) ことを指す。



## 参考文献

### 日本語文献（著者名五十音順で記載）

- 1) 浅野茂 (2015)、「大学教育における分野別質保証の在り方に関する研究報告書」、『大学評価・学位授与機構』、2015-03
- 2) 泉重樹, ハモンズ デイブ (2016)、「米国と日本の学部教育におけるアスレティックトレーナー教育制度比較 :Boise State University を例にして」、『法政大学スポーツ健康学研究』、第7巻、pp31-38
- 3) 泉秀幸 (2012)、「アスレティックトレーニング専門職教育制度の国際比較 - 日本におけるアスレティックトレーナー教育制度の発展に向けて -」、『スポーツ科学研究』、第9巻、pp366-378
- 4) 泉秀幸 (2014)、「アスレティックトレーニングの専門家資格制度と業務の日・米・加比較 - 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーにおける国際的資格互換制度への課題 -」、『早稲田大学審査学位論文(博士・スポーツ科学)』
- 5) 泉秀幸 (2020)、「我が国におけるフルタイムのアスレティックトレーナーとして活動する日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの特徴 - 「第1回日本のトレーナー実態調査」 -2018年のデータより」、『日本アスレティックトレーニング学会誌』、第6巻第1号、pp95-104
- 6) 浦辺幸夫 (2016)、「アスレティックトレーニング学の体系化に向けて」、『日本アスレティックトレーナー学会誌』、第2巻第1号、pp15-21
- 7) 江村正、大坪芳美、小田康友、酒見隆信 (2014)、「医学科早期体験実習の変遷と課題」、『佐賀大学全学教育機構紀要』、第2号、pp51-56
- 8) 金子亨 (2011)、「スペインの教育改革の変遷」、『東京学芸大学紀要芸術スポーツ科学系』、2011, 63:13-21
- 9) 妻木充法 (2014)、「世界のトレーナー—ワ

ルドカップとJリーガー』、『社会鍼灸学研究』、通巻9号、pp5-9

- 10) 長井真弓、劔明佳代子、桂理江子、小野部純、小林武 (2021)、「理学療法士養成校の就職活動状況および就職先選択条件」、『理学療法学』、36 (1)、pp59-65
- 11) 馬場宏輝 (2007)、「日本、アメリカ、台湾におけるアスレティックトレーナー養成システムについて」、『仙台大学紀要』、38巻2号、pp35-46
- 12) 堀井祐介 (2018)、「ヨーロッパにおける大学評価の最新の動向」、大学評価研究、2018年10月第17号、pp25-30
- 13) 吉本圭一 (2001)、「大学教育と職業への移行 - 日欧比較調査結果より -」、『高等教育研究』、2001第4集 pp113-134
- 14) 公益財団法人日本スポーツ協会 (2021)、『アスレティックトレーナー専門科目テキスト1』、文光堂、pp1-127, 164-170

### 外国語文献（著者名アルファベット順で記載）

- 15) Elena Chamorro, José Siles González, Cristina Días Pérez, Óscar Álvarez López (2018), "60 años de la aprobación del título de fisioterapia y de la primera escuela de fisioterapia reconocida, la de salud infirmorum en el centro infantil Casa del niño de Madrid", *Revista de Historia de la Medicina y de la Ciencia*, 70 (2), 2018, pp233-254
- 16) Francisco Ruiz Salmerón (2015), *Guía básica de fisioterapia educativa*, Región de Murcia, pp8-54
- 17) Igual Camacho, Ma Cebriá Iranzo (2008), "La Diplomatura de Fisioterapia en el Espacio Europeo de Educación Superior: la visión del discente", *Fisioterapia*, Vol.30 Núm.4, pp180-185
- 18) Pilar Serrano-Gallardo, María Luisa Martínez-Martín and Mercedes Martínez-



- Marcos (2018),” Factores que determinan la evaluación del trabajo fin de grado. Un análisis multinivel”, Educación Médica, Vol.19 Issue.6, pp339-347
- 19) R.Chillón Martínez,J.Rebollo Roldán,A. Javier Meroño Gallut (2008),” El pensamiento histórico-filosófico y los fundamentos científicos en el estudio de la fisioterapia”, Rev fisioter, 2008;7 (2):05-16
- 20) Ramón Fernández Cervantes, Sonia Souto, Luz González Doniz, AnaLista Paz, Antonia Gomez Conesa,” Proyecto de Especialidades en Fisioterapia”, Asociación Española de Fisioterapeutas, M-11009-2015
- 21) World Physiotherapy (2019), Descripción de la Fisioterapia Declaración política,

#### 参考 URL

- 22) [https://www.ine.es/daco/daco42/clasificaciones/cno11\\_notas.pdf](https://www.ine.es/daco/daco42/clasificaciones/cno11_notas.pdf) (スペイン国立統計局、検索日 2022/10/22)
- 23) [https://www.jleague.jp/docs/aboutjclublicense2017\\_01.pdf](https://www.jleague.jp/docs/aboutjclublicense2017_01.pdf) (Jリーグ規約, 検索日 2023/10/15)
- 24) <https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid1344.html> (日本スポーツ協会, 検索日 2023/10/15)
- 25) <https://www.uab.cat/web/estudiar/listado-de-gradados/informacion-general/fisioterapia-1216708258897.html?param1=1265293758365> (Universitat Autònoma de Barcelona, 検索日 :2023/10/15)
- 26) <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/asset/pdf/18ecade1111774b9d1faf1d27a27a4ab.pdf> (公益社団法人日本理学療法士協会認定理学療法士制度について、検索日 :2023/10/15)
- 27) <https://www.tmu.ac.jp/academics/hs/rigaku/model.html> (東京都立大学健康福祉学部理学療法学科 HP, 検索日 2023/11/08)